



キリン食生活文化研究所

研究員が読みとく vol.3

日常を深掘りすると新しい価値が見えてくる？

データから読みとく日常の中の喜びと飲食の関係

日常を深掘りすると新しい価値が見えてくる？

4月に報告した調査レポート「良いことがあった日のごちそう」では主にハレの日に着目しました。ハレの席での食事は、寿司、ケーキ、肉が上位を占めていました。では、日常の中では、喜びと飲食はどのように関係していくのでしょうか。今回のレポートでは、お祝いの頻度が多い人に着目し、日常の中の喜びを深掘りしてみました。

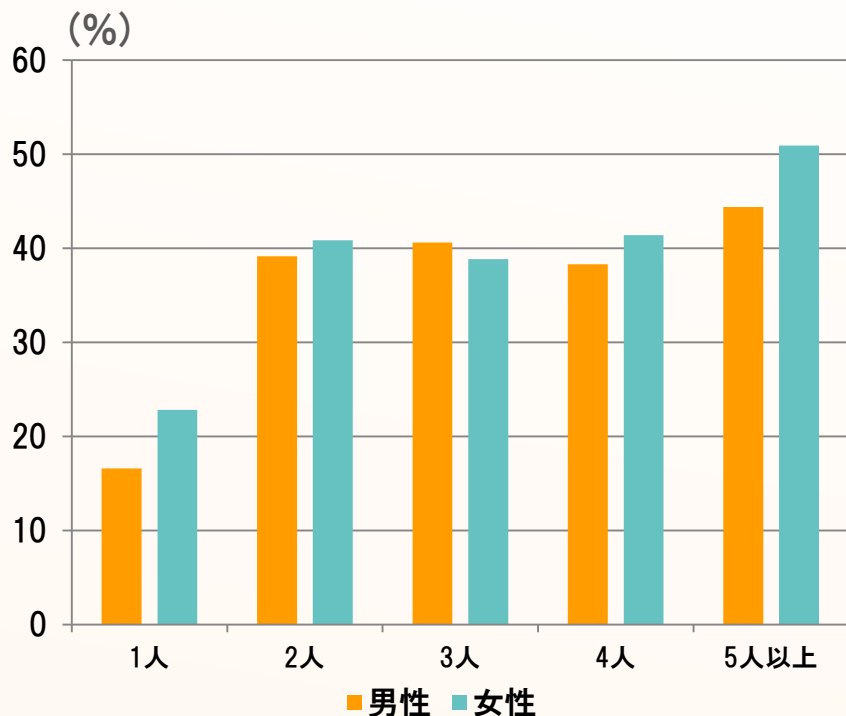
サマリー

- 5人以上集まる食事は、とても満足している人が多かった(男性は44.4%、女性は50.9%)。食事時間に関しては、60分以上と答えたのは全体では6.5%だったが、ビールを飲んだときは23.2%、ワインを飲んだときは33.1%と、全体よりも多かった。食べている時間が長くなるほど夕食の満足度は高くなる傾向があった。
- お祝いの頻度は「2・3カ月に1回」と回答した人が38.8%と最も多く、一方で「月2回以上」と回答した人は3.7%と少数だった。お祝い頻度の多い人は、「子供や孫の成長活躍」、「仕事の成果・区切り」など幅広いシーンで喜びの機会を発見していることがわかった。
- 夕食についてのコメントから「日常の中にある喜び」を抽出しまとめると、「わずかな時間でもゆったりつかう」(⇔「しっかりプランニング」)、「持ち寄る」(⇔「ごちそうしてもらう」)、「誰かがいない」(⇔「特別な人がいる」)など、ハレの席とは異なる新しい切り口が見つかった。

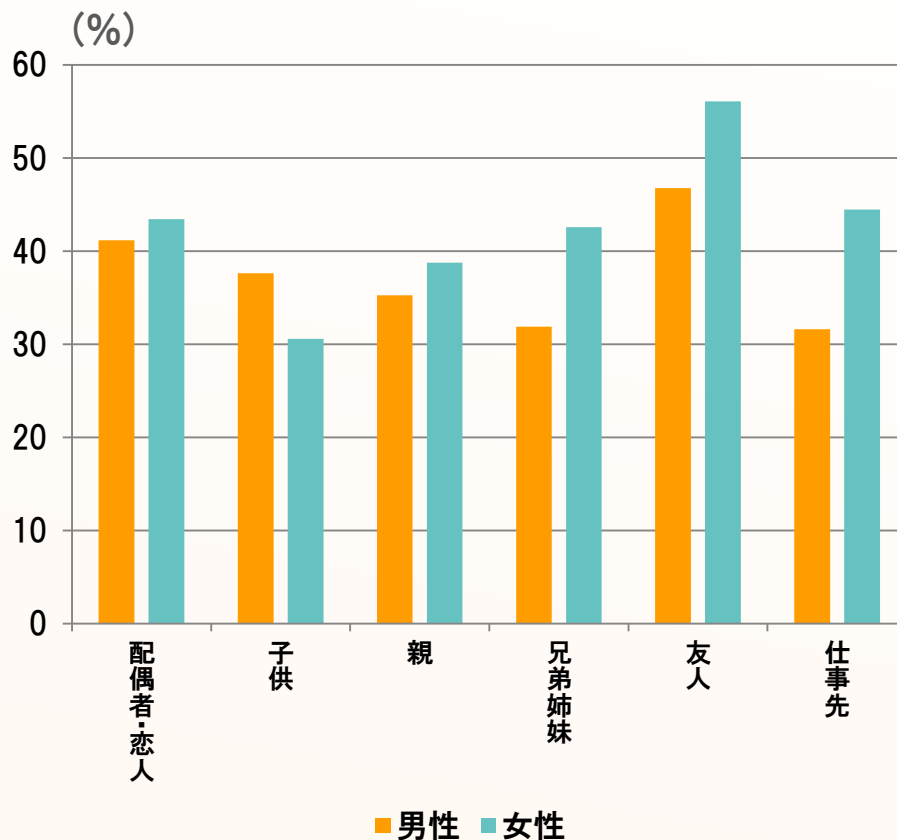
1. 夕食の満足度を、人数、相手、時間で比較してみました

Q.夕食は何人で食べましたか？また誰と食べましたか？
夕食の満足度は？

何人で食べたか×満足度(とても満足)



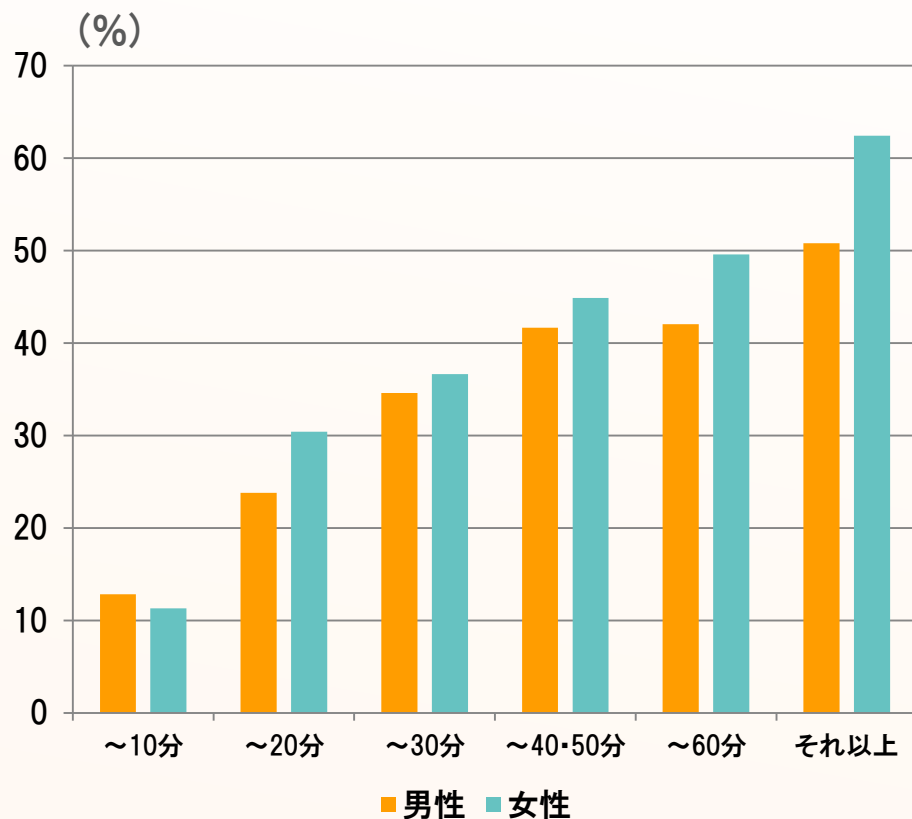
誰と食べたか×満足度(とても満足)



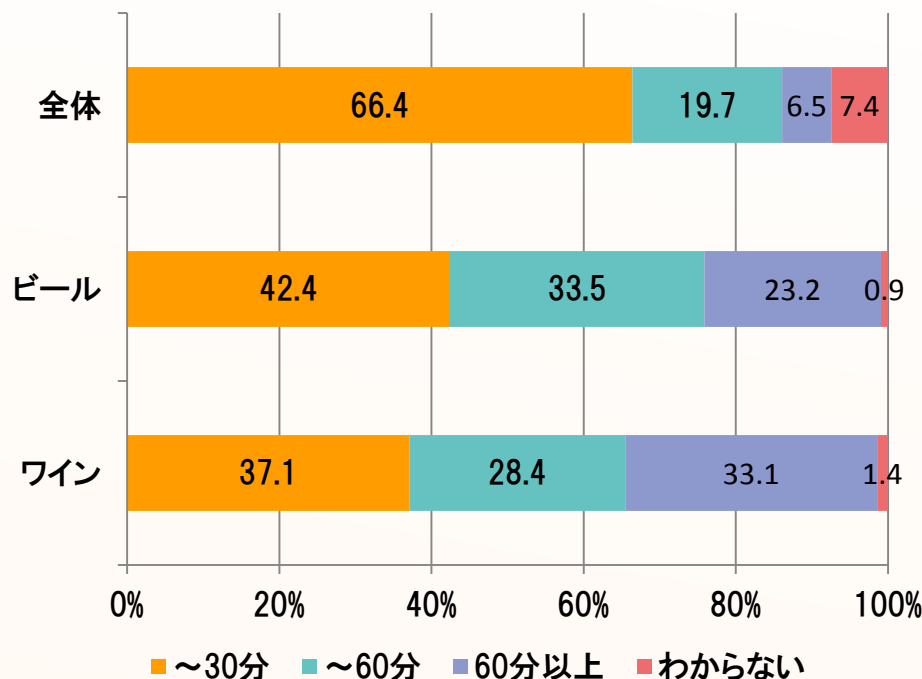
2. 夕食の満足度を、人数、相手、時間で比較してみました

Q.夕食を食べていた時間は？夕食の満足度は？
ビールやワインを飲みましたか？

食べていた時間×満足度(とても満足)



飲みもの×食べていた時間



食卓満足度と、人数・時間との関係

大勢で食べたほうが満足度が高い。2人なら友人、配偶者・恋人。

キリン食生活文化研究所の毎年2回の調査結果から、食卓の満足度についてまとめてみました。

夕食は何人で食べましたか、また誰と食べましたか、夕食に満足しましたかの問いに、とても満足と答えた人は5人以上で食事をした場合に最も多く(男性44.4%、女性50.9%)、1人で食事をした場合が最少でした(男性16.6%、女性22.8%)。2人で食事の場合は、男女とも友人(男性46.8%、女性56.1%)、配偶者・恋人(男性41.2%、女性43.4%)と食べていたときの満足度が高く、女性では仕事先(44.5%)、兄弟姉妹(42.6%)も高いようです。

食卓満足度は、食べている時間と比例。ビールやワインがあれば長くなる。

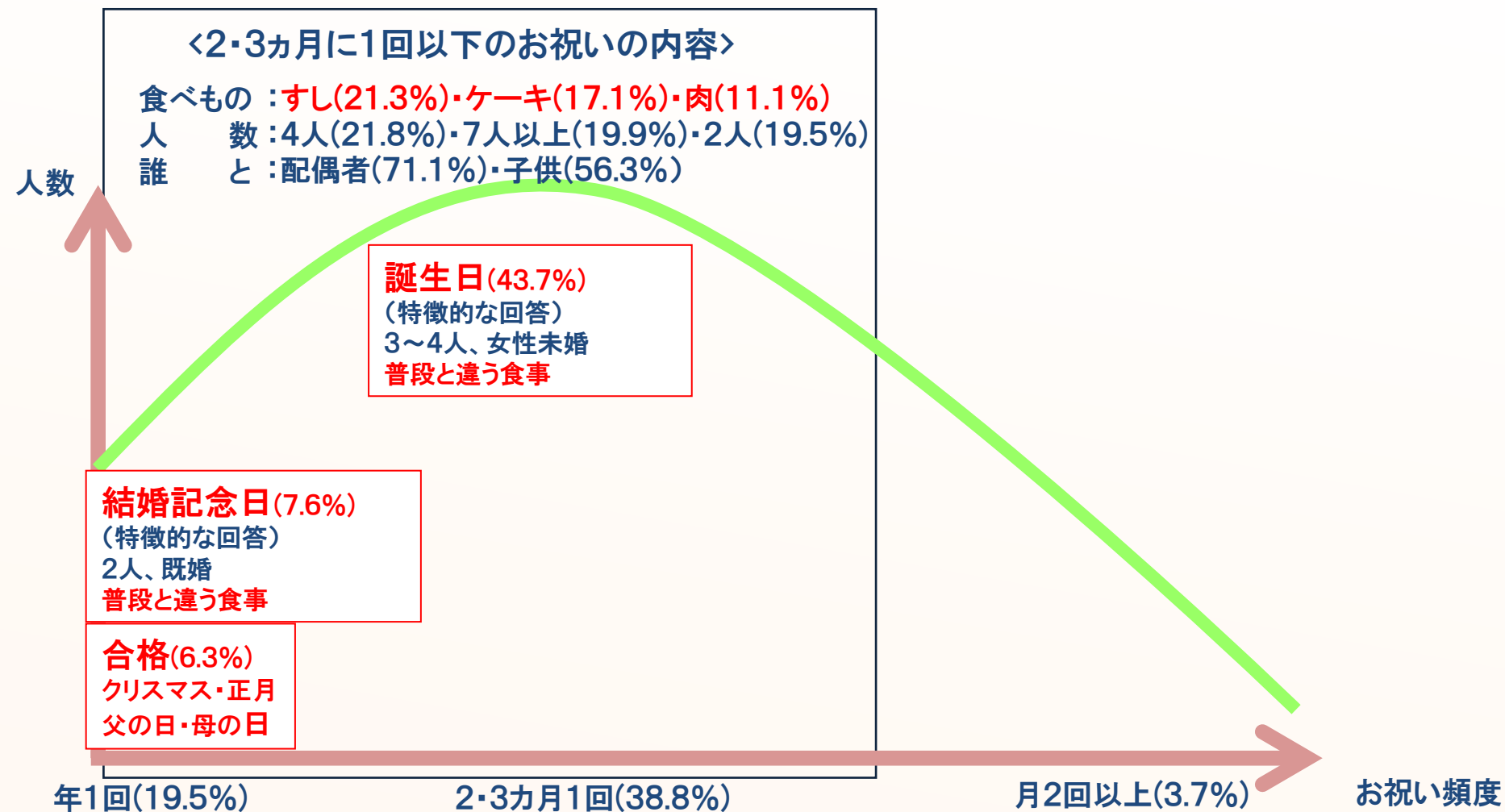
夕食を食べている時間は30分未満が66.4%と過半数でした。夕食の満足度は、食べている時間が長くなるほど高くなる傾向があるようです。夕食を「とても満足」と答えたのは、食事時間が10分未満の人では男性12.8%、女性11.3%だったのに対して、60分以上と答えた人では男性50.8%、女性62.4%と、食事時間によって大差が見られました。食事時間が60分以上の人は、全体では6.5%でしたが、ビールを飲んだときは23.2%、ワインを飲んだときは33.1%と、全体より多く、ビールやワインを飲むときは食事時間が長くなるようです。

食卓の満足には、誰と食べるかや、何を飲むかが影響を与えていることがうかがえました。

次に、良いことがあった日のごちそうのアンケート結果を読みこんでみましょう。

3. 2・3ヵ月に1回以下の人のお祝いの内容

Q.この一年でお祝いはどれくらいしましたか？その日はどんな日で、何人で、誰と一緒にでしたか？いつもと違うものを食べましたか？



一般的なお祝いの姿

お祝いは2・3カ月に1回、誕生日、結婚記念日が多く、
ごちそうと言えば、寿司やケーキ、肉

この一年で、何か良いことがあったときにお祝いをしましたか、またそれはどんな日で、何人で誰と一緒にしたか、いつもと違うものを食べましたかを聞きました。

4月に報告した調査レポート「良いことがあった日のごちそう」にあるとおり、お祝いの頻度としては「2・3カ月に1回」が38.8%と最も多く、内容は「誕生日(43.7%)」が圧倒的、次いで「結婚記念日(7.6%)」「合格(6.3%件)」が挙げられました。

人数は「4人(21.8%)」「7人以上(19.9%)」「2人(19.5%)」が中心でした。

また「いつもと違う食べ物を食べる」と答えた人がほとんどで、その内容としては、「寿司(21.3%)」「ケーキ(17.1%)」「肉(11.1%)」がトップ3でした。

今回のレポートでは、前回のレポートとは逆に、お祝いを「月2回以上(3.7%)」する、頻度が多い人の回答に着目してみました。

4. 月2回以上の人のお祝いの内容

Q.この一年でお祝いはどれくらいしましたか？その日はどんな日で、何人で、誰と一緒にでしたか？いつもと違うものを食べましたか？



お祝い回数の多い人は、幅広いシーンで機会を発見している

月2回以上お祝いしている人のお祝い機会は、
子供や孫の成長活躍、仕事の成果や区切り など

＜お祝い機会＞

「子供や孫の成長活躍(3～4人でお祝い、30・40代)」

「仕事の成果や区切り(1人でお祝い、20～50代)」

「嬉しい・頑張った時(1人でお祝い、30・40代)」

「仕事で良いことがあった(2人でお祝い、20～40代)」

「友人・仲間との集まり(2人でお祝い、20代女性、60代)」などが挙げられました。

回数が多い人は、幅広いシーンでお祝いの機会を発見しているようです。

＜食べたもの＞

「患者さんからお礼を言われ、ハーゲンダッツを食べた。(40代男性)」

「仕事の更新が決定し、いつも我慢しているスナック菓子を食べた。(50代女性)」

「仕事で新たな契約がとれたので、チーズの盛り合わせを買って食べた。(30代男性)」

など、おやつやスナック菓子などで、ちょっとした「自分へのごほうび」をとっている様子も見られました。

さらに、キリン食生活文化研究所の調査にある、普段の夕食状況についての回答から、
日常の中の喜びを抽出してみました。



5. 日常の中にある喜び①

Q.昨日の夕食について出来るだけ具体的に教えてください。

久しぶりに早く帰れたので妻の手料理を食べた。
翌日休みなのでおしゃべりしながらゆっくりと食
事を楽しめた。(60代男性)

料理の下ごしらえして、風呂に入る。風呂からあ
がったらゆっくり酒を飲む。30～60分ぐらい酒を
飲んだら飯を作る。野菜と肉を炒めて、ごはん、
味噌汁、つけもので夕食。(40代男性)

休日でもあるし、ワインを飲みながらテレビを見
たり音楽を聴きながら、ピザをゆっくり食べました。
(50代男性)

子供を寝かしつけた後1人で晩酌。撮りためたドラ
マや映画をボーッと見ながら、1日で唯一、1人
ゆっくりできる時間を過ごしました。(50代女性)



(日常の中の喜び)

「わずかな時間でもゆったりつかう」



(ハレの席の喜び)

「しっかりプランニング」

5. 日常の中にある喜び②

Q.昨日の夕食について出来るだけ具体的に教えて下さい。

職場で連休明けにふるさとの名産品を持ち寄って職場の親睦を深めるという会がありました。(40代男性)

友達との交流を深めるために鍋大会。豪勢な食材を持ち寄ってお鍋にするんです。お酒好きが集まっているのでいろんなお酒が並びとても楽しいです。(30代女性)

12人のグループで、それぞれが一番のネタを持ちよって「手巻きずし」をしました。家でのネタとまた違った新しい味がありました。(60代男性)

お祝いに限らず、いつでも仲間がホームパーティーに招待してくれ、ビールやワインなど持ち寄って、会話を楽しんでいます。(40代女性)



(日常の中の喜び)

「持ち寄る」



(ハレの席の喜び)

「ごちそうしてもらう」

5. 日常の中にある喜び③

Q.昨日の夕食について出来るだけ具体的に教えて下さい。

エビは夫がアレルギーで普段食卓に出せないの
で、アボカドとエビ料理は夫がいない日の定番メ
ニューだ。(30代女性)

娘がいなかったので、娘が嫌いで、かつ夫が好き
なものをメインに食べました。食べ物を残すこと
が多い夫が、昨晚は、お酒を飲みながら、全部食
べてくれました。(50代女性)

息子が外食の日は妻と二人なので主食はなしで、
毎晩ワイン一本。(50代男性)



(日常の中の喜び)

「誰かがいない」



(ハレの席の喜び)

「特別な人がいる」

日常の中の喜びに着目すると、人生が豊かになる？

日常の食事を深掘りして見えてきた、ハレの席の喜びとは対極にある喜び

夕食時の状況についての自由回答から「日常の中にある喜び」を抽出して、まとめてみました。

<u>日常の中の喜び</u>	⇔	<u>ハレの席の喜び</u>
わずかな時間でもゆったりつかう	⇔	しっかりプランニング
持ち寄る	⇔	ごちそうしてもらう
誰かがいない	⇔	特別な人がある

ハレの席の喜びの対極として、日常の中の喜びを発見することができました。

6. あとがき

調査から、日常の中にあるちょっとした喜びを意識してお祝いしている人が、少数ですが、いらっしゃる事が確認出来ました。

普段の夕食状況についての回答から、日常の中の喜びを抽出してまとめてみると、各々が自分の好きなものやこだわりのものを持ち寄って共有したり、日常の中のちょっとした時間や変化を活かして特別な機会を見出すといった喜びがあることもわかりました。また、決まった日に誰かが主役となりごちそうされるといった、外からの喜びではなく、自ら喜びをデザインしたり、誰かと一緒になって喜びをつくりあげるといった、内からの行動が新たに増えてきました。

日常を深掘りすることで増えてきた喜びを「新しい軸」として用いることで、生活者への新しい価値を見つけられるかもしれません。そしてその価値は、日常の中でちょっとした喜びを見出す人達を応援する商品やサービス、日常の喜びを意識する機会を増やすような試みに活かされることで、多くの人の人生を豊かにするものになるかもしれません。

自らも生活者として日常の中の喜びを意識・共感して、更に新しい価値について探索したいと思います。

ではまた、次回の報告でお会いしましょう。